



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 坂野慎治
 題字 島崎洋路

『残す木、伐る木・・・残る木』
 通年コース第七・八回開催報告 「間伐」

昼間の暑さは続くものの、
 蝉時雨は一時の勢いを失い、
 朝夕に吹く風には秋の気配
 が少し。そんな、夏に秋がわ
 ずかに混ざり込んだような
 八月下旬の伊那谷での間伐。

島崎先生が提唱された保
 残マーク法は、植えた木
 が六十歳になった時に、何
 本がどのような間隔で残つ
 ているかを想定して、今の
 手入れをするという方法で



追い口を伐り込む



幹を抉るくらいの気持ちで

す。
 今回の現場の道上のところ
 を例に取ると、このヒノキ
 は現在およそ三十四歳、上層
 樹高が十六メートルくらいな
 ので、地位指数は十八。六十
 歳の時には樹高が二十一メー
 トルになり、この時点のSrを
 20にすると・・・ヘクタール当
 たりの保残木数は五百六十七

本。そして、優先
 的に間伐しなく
 てはならないの
 は、形質の良し悪
 しにかかわらず、
 保残木の生長を
 阻害するもの。
 ということ
 は・・・最後まで
 残らないが、今は
 伐る必要がない
 木もある・・・とい
 うことに。それが
 この方法の最大
 の特性です。
 そのことを理解して、さら
 に、七月の測樹と施業診断



測樹の復習



明日のためのメンテナンス

伐木造材を思い出しながら、
 プロット調査をし、設定Sr
 から保残木数を割り出した
 ら、残す木をマークして、間
 伐を行う。
 保残木や施業後の林分の
 将来像を想像しながらの間
 伐は、同時に伐られる木へ
 の感謝も忘れず、できるだ
 け使うために出したいと
 思った二日間。

通年コース
 第七・八回 間伐

8月25日(金)

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。
 日程や作業条件の説明、
 特別参加の武田さんを紹介
 したあと、早川講師の
 挨拶に続き、島崎先生の
 挨拶と森林・林業の現況
 の話。

10時30分

分乗して現場へ向かう。

10時55分
 現場到着後、各班毎に機材

9時20分

実演。
 島崎先生の保残木マー
 ク法講義。六十年生時の設
 定Srから選んだ保残木の、
 生長の邪魔になる木を伐
 ること。列状間伐の講義
 も受ける。

10時10分

班分けのあと、身支度をす
 る。





体勢は大事です

12時5分 林道路上で昼食。
 13時 間伐開始。マークした保残木の生長に影響を及ぼす隣接木を間伐して行く。
 15時35分 作業を終了し、小屋へ。
 16時 チェーンソーの刃の目立て。ヤスリの大きさを確認して、30度・水平・一方通行。
 17時 講師講評にて終了、解散。

18時30分 さっそく交流会の準備。恒例のお酒とバーベキューの交流会開始。みるみるうちにビールの空き缶や空の一升瓶が。焼肉を平らげ、焼きそばが供されて、島崎先生の雪山賛歌とハーマモニカが飛び出せば、宴もたけなわ。
 8月26日(土)
 8時35分 島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶、日程説明など。



立ち位置を求めて

8時55分 身支度を整え、さっそく分乗して現場へ向かう。
 9時15分 各班で機材を準備し、体操をしたら、間伐開始。林道の伐倒では、ロープやチルホールを使っての作業。ヒノキは枝がしなつてなかなか倒れない。造材は、幹の曲がりをよく見て、元玉が柱材になるように。
 12時10分 各班毎に林内で昼食。
 13時 大工塾の方々が後藤班と

川島班の作業を見学するなか、間伐再開。伐倒時の体勢や立ち位置、造材時の材の動きなどに注意しながら間伐が進み、林内が明るくなつて行く。
 15時35分 現場作業を終了し、小屋へ。
 15時55分 チェーンソーの掃除。バーの溝やオイルの通り道の掃除は入念に。組み立てる時にソーチェーンの方向を間



浮かか、沈むか・・・

16時45分 島崎先生を囲んで記念撮影のあと、講師講評。諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。
 参加者/石垣さん、石田さん、石原さん、井上さん、榎さん、大村さん、川越さん、小池さん、坂上さん、高野さん、高橋さん、長田さん、堀江さん、山本さん、吉永さん、熊木さん、園田さん、長坂さん、武田さん

講師/島崎先生、早川講師
 スタッフ/大野、川島、後藤、藤原、坂野



次回以降の予定

第九・十回
 9月15・16日(金・土)
 伐出

伐ると出す。伐るは間伐。出すは…ウインチや林内作業車で、材を寄せ集めて運ぶ。それぞれの機械の特徴をつかみ、集材を考慮した伐倒にも挑戦して頂ければと思います。
 現場は、間伐のところと小屋横の伐木造材で伐倒をしたところの二ヶ所を予定しています。
 8時30分、島崎先生の山小屋に集合。マイ装備・マイ道具、ご持参下さい。



専門コース 第三回

10月5〜7日(木・土)

早いもので、専門コースは今年度最後の開催となりま
す。安全・確実な伐倒・幹に
沿った丁寧な枝払い、重心を
見極めた造材…伐木造材の
集大成を目指して。ご希望が
あれば牽引伐倒やひっぱり
だこ集材も可能です。

現場は、小屋裏の旧日影区
有林を予定しています。
8時30分、島崎先生の山小
屋に集合です。

第十一・十二回

10月13・14日(金・土)

見学・枝打ち

一日目は、伐った木の、そ
の後…。午前中に長野県森
林組合連合会の伊那木材市
場にて、木材流通の一端を、
午後は、有賀建具屋さんで建
具や家具の加工・材の見本
を見学させてもらつて予定で
す。

二日目は、特別講師の保科
先生による枝打ち講座。午前
中に、ぶり縄を作つて木に登
る練習を。午後は現場で枝打
ちです。枝打ちの目的や時
期・方法をしっかりと掴ん
で下さい。また、保科先生愛
用の道具も必見です。
8時30分、島崎先生の山小
屋に集合です。

リレー通信

「山への思い」
吉岡 正之



つい最近、日本が1992
年の国連環境開発会議で採
択されたモントリオール・
プロセスに加盟しているこ
とを知った。これは持続可能
な森林管理を検討するの
に必要な項目の枠組みが示さ
れたものである。温帯林と北
方林諸国の中で、EUのま
たものを「ヘルシンキ・プロ
セス」とEU以外の国がま
たものが「モントリオール・
プロセス」である。(現在は
プロセス数が増えている。)
我が国の森林・林業基本
計画では、水土保全林、森林



と人との共生林(生活林また
は共生林)および資源の循環
利用林(資源林または生産
林)にゾーニングしようとし
ている。

これらは今、もっとも懸念
されている地球温暖化防止
や森林の減少等の対策に他
ならない。地球温暖化等が進
むのは、太陽が示した自然界
の均衡を保つための人類削
減なのか?.....

私は昭和19年生まれで
ある。幼少の頃は雲出川上流
の山間で暮らしていた。時々
進駐軍のジープが走ってい
た。その後、ジープも走らな
くなり、高度成長時代に突
入した。

「貧乏人は麦飯を食え。」と
言った人がいた。父は一生懸
命働き、山田を手に入れ、米
を作った。そうして、製材所
で働いていた。帰りには「こ
わ」といつて、製材にした後
に残る端木をもらって帰つ
て来た。それで、ご飯を炊き、
風呂を沸かした。道路から家
までの坂道を、毎日、自
転車の後押しをした。

それから、秋には稲刈
りを手伝った。田んぼ
の中には、イナゴ、ド
ジョウ、ウナギ、タニシ
やナマズもいて、とつ
て食べた。ヘビやマム
シもたくさんいて、そ
れをとって売っていた



人もいた。私は爬虫類が大の
苦手である。特に、夏休みや
冬休みは、山では果実、山菜、
昆虫や小鳥をとり、川では、
魚をとり、泳いで遊んだ。今
このようなことをすると、法
規制に抵触するおそれがあ
る。

長男である私も、高校卒業
後、高度成長時代の波に乗
り、サラリーマンになり、金
儲け(餌をとり)に走った。

生きるための最小限ではな
く、余分な餌もとり、自分の
考えもそこそこに、ただ時代
の波に乗った。今、考えてみ
ると、なんだかむなしくな
る。在職後半になり、仕事上
環境問題が気になってきた。
会社も環境を重視し、仕事の
制約も多くなってきた。「木
曾川流域の河川環境と水資
源運用」について、修士論文
を書いた。退職後は環境につ
いて、何かしようと考えてい
た。
愛・地球博をかわきりに、
環境に取り組むことにした。
私の考え方には2つある。一
つ目は、子孫繁栄のための環

境、二つ目は、生き物(自然
界に生きるもの)との共生の
環境である。これらを考える
とき、いかに、山が、大きな
役割を果たしているかを認
識しなければならぬ。ポラ
ンティアをとおして、山の手
入れを実現しようとして計画し
ている。チェーンソーも買
い、準備を整えている。しか
しながら、山の手入れがなぜ
必要か、何を指すのかが漠
然としている。それは、高度
成長時代のような人任せの
考え方であつてはならない。
必ず「T U K E」(つけ)が
まわってくる。正しい知識と
理論に基づいて、実践する必
要がある。

冒頭で述べた水土保全林、
共生林そして資源林のゾー
ニングが行われようとして
いるが、これらは、「森林生
態系の健全と活力の維持」を
基盤とされるべきである。正
しい知識と理論を用いて、
「地球規模の炭素循環機能で
ある森林を、育てよう」では
ありませんか。若い人々が暮
らしていける資源林も考え
ていく必要があると思う。人
類の叡智を結集して、新しい
山造りを実践していきたい
と考えている。

わが国には、四季があり、
恵まれた自然環境がある。
ほつといても、草や木、苔も
生える。すべて、これらもま
た、資源である。これらを活

用できるのは、国民である。
私はK O A 森林塾の集中
コース 夏の部 を受講す
ることにした。その内容は、
チェーンソーの使い方手入
れ、間伐方針の策定および間
伐と簡単な集材である。これ
らを身に着けることで、自分
の考え方を創造し、着実に進
むことができるのである。

K O A 森林塾は長野県伊
那市横山の島崎山林研修所
で行われ、あつたが、朝夕は涼しく、ヒ
グラシも鳴いていた。島崎先
生の山造りが継承され、継続
される
ことを
希望す
る。講
師の早
川さ
ん、坂
野さん
には親
切、ていねいに教えていただ
き、ありがとございます
た。また、塾生のみなさまに
は、親切にしてくださいませ
でいます。このK O A 森林塾
で教わつたことを、実践しよ
うではありませぬか。いつ
か、再開できる日を楽しみに
しています。

最後に、投稿の機会を与え
てくださった関係者のみな
さまに、感謝の意を表しま
す。



リレー通信

自然に感謝 高橋 紀子



今回群馬県前橋市から通年コースに参加させて頂いております。団塊の世代、高橋と申します。昨年ごろから団塊の世代と新聞や雑誌などで騒がれ始めたせいもあり、私も残された人生をどのように過してゆけばよいのかとなんとなく考え始めました。ボランテアでも何でも良い。自分の好きなことにかかわって生きてい。では一体私の好きなことは？自分が幸せと思えるときは？…音楽を聞いている時。満月の月明かりを



見ているとき。でも一番は・・・やっぱり木でしょう。晩秋の暖かな日、南東の風にのってクルクルと舞い降りてくるケヤキの枝葉、サラサラと落ちてくるコナラの葉。その中に静かに耳をそばだて佇んでいる時。その時が私にとって至福の時なのです。いつからかはつきりとは分らないけれど木や山について学びたい、知りたいと思うようになりまして。

今年のお正月に偶然、浜田久美子さん著の「森をつくる人々」を購入し、女性でもこんなに木を愛する人々がいるのかと本当に嬉しくなりました。そしてKOA森林塾を知りました。私も参加したい。その思いは日増しに強くなり、もし参加できるとしたら今しかない。年齢的にも二度とこんなチャンスにめぐり合えないでしょう。幸運なことには持病の腰痛も良い状態にあり、周囲にあまり迷惑をかけないで行けるのではないかしらと思え、孫だけはベビシッターさんに頼んで私の頭の片隅にKOA森林塾はインプットされました。仕事・家事・庭・趣味、そして一昨年からの孫の守を仰せつかり、なんとせわしなく日々暮らしてあります。そんな毎日の生活に疲れて



きた私にとって、伊那へ出かけるのと考えるだけで楽しく心弾んでくるのでした。ついに五月十九日、鳩吹公園の東、鳥崎山林研修所に到着できたのです。森林塾は私の想像していたとおりでした。期待を裏切られなかったことが本当に嬉しいです。周囲のロケーションのすばらしさはいうに及ばず、各自穏やかな雰囲気をお持ちのスタッフの方々、目標を持って参加されている塾生の皆様、毎回可憐な花や木を取ってきては飾ってくださるOBの方々。本当に参加できてよかったと実感しております。鳥の好きな私には、初日に鳩吹公園でみかけたキジ、樹木観察のときに教えて頂いたコゲラ、六月のカッコウやウグイスの声を聞きながらの下草刈り。自然に大感謝です。

かつたように見え、実際に森林診断書を作成してみたい気持ちわいてきました。やっと赤城山に住んでいる叔父に連絡してみようかなと思ひ、すぐに会いに行きました。前橋から見る赤城山は左右に裾を大きく広げている美しい山です。今まで山の広さや植わっている樹木の種類、どのように山が利用されているのか、尋ねたことなどありませんでした。面積は百ヘクタール。ヒノキ・松・杉・そのほか広葉樹林。百六十年生の松を売りたいが売れないこと、その松がほとんど松くい虫に食われていて、昔は標高三百メートル以上には松くい虫はいないといわれたそうですが、いまでは六百メートルでも食われること。鹿やイノシシが最近多くなってきたことなど…。私は質問されても少しは答えられるようにと復習をして、相対幹距比・林分形状比・地位指数など森林塾で得た知識を一生懸命搾り出し、話げできたことに二人で驚きあいました。こんな近くに百ヘクタールも山があるなら、私はいらない。大好きな赤城山に少しかわらせていただこう。なんだかすこく嬉しく、満足感一杯になりました。

持て、本を身近に置くようになりまして。車に乗っていても、街路樹の全体の姿や幹の様子、横目で葉の形を見たりと楽しみが増えました。これも毎日の積み重ねなんですね。一つでも多く覚えたいと思います。ところで、どうして街路樹は外来種が多いのでしょうか。先日ある公園でユリノキの大木を見ました。まわりの木では蝉がたくさん鳴いていたのに、ユリノキには一匹もいませんでした。本からの知識ですが、外来種に集まる虫の数は在来種の二十%以下。そんなことがそのとき頭をよぎりまして。私たち人間も地球に住ませて頂いている生物の一種です。もっと他の生物達のことでも少しは考えないといけないのでは、おいしい所だけ頂いてばかりではダメです。これから森林塾は続きます。皆様のお邪魔にならぬようがんばります。これからもどうぞよろしくお願い致します。

コラム

今年六月二十一日が夏至、そして八月八日が立秋でした。夏から早くも二ヶ月。今年は七月に雨や曇りの日が多く、特に後半には大雨が続いたせいもあり、本格的

な暑さが始まったのは八月に入ってから。しかし、ここ信州ではお盆を過ぎると早くも秋の気配が漂い始めます。日中の長さも夏至から少しずつ短くなり始めています。

私は幼い頃、祖母からこの少しづつと言う事を、「お米一粒づつ…」という表現で教わりました。お米の一粒はわずかですが、その積み重ねで、いつの間にか随分日が短くなっていくことに気がきます。幼い頃は気になく聞いた言葉でしたが、今はうまい表現だな」と感心しきり。まだまだ暑い日は続きそうですが、お盆を過ぎ、お米一粒づつ秋に向かって進んでいくようです。

「イントラ 川島」

おわりに

夏には暑気払い、そして冬には炭を焼きながら忘年会。今回参加できなかった方も次回回は是非。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
URL http://www.koanet.co.jp